

## 令和2年度 事業執行経過報告について

### 令和2年度 社会福祉法人 天寿会 事業執行経過報告

令和2年度、天寿会は創立51周年を迎え利用者・地域社会・職員にとって天寿会があって良かったと思われる事業運営を目指し、中期計画に基づいた4項目を軸とした取り組みを計画しましたが、年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な制約のなかでの事業執行となりました。法人内での感染は幸いなことに発生しませんでした。外出・面会の制限や全体行事の中止が続き、関係者にとってストレスのある環境となってしまいました。そのような中、ユニット型特養「友活の里」が4月から事業開始となり、その後も順調な運営を継続しています。また、新型コロナウイルス感染症防止対策による補助金・支援金等の活用により予防用具機材等の充実を図りました。

#### 〔1〕 重点項目への取り組み及び評価

##### ① 経営

障がい分野事業所と介護保険分野事業所では、やや差はあるものの全体としては概ね安定した経営となった。

情報開示ではホームページの充実を図るべく本部及び各事業所のブログを開き、日々の取り組みや行事など情報開示を進めたが、内容については事業所によって差が出ている。

働きやすい職場づくりとしてパワハラ・セクハラなどのハラスメント防止に取り組み、ハラスメントに関する研修を計8回、141名が参加。8月にはハラスメントに関する全職員アンケートを実施した。

##### ② サービスの向上

上半期に骨折事故が多発していた3施設のうち、寿幸園は下半期に重大事故の報告がなく改善がみられたが、特養部・友活の里は9月以降も骨折事故が減少はしたものの1～2件の発生があった。そよ風の里では誤薬が続き防止マニュアルの形骸化が見られた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で面会者など「外からの目」がほとんどなくなったことから、不適切なケアや虐待行為に結び付くようなことがないように留意した。療護棟の施設整備検討については新型コロナウイルス感染防止の影響もあり取り組みができないまま次年度への繰り越しとなってしまった。

##### ③ 地域とのつながり

社会貢献の場として、地域共生の場として位置付けていた活動は新型コロナウイルス感染症防止のために、白老町からの委託事業も含め、そのほとんどが中止となってしまった。やむを得ない面もあるが、今後は地域共生の新しいスタイルを模索していくことを課題として次年度に繋ぐこととなった。

##### ④ 人材の確保と育成

友活の里開設に伴う新規採用及び退職者の補充については概ね確保ができた。育成の部分では外部研修が中止または延期となり一部オンライン研修も行われたが例年に比べ質量ともに少なかった。内部研修においても職員が密集しないよう配慮が必要となり1回の参加者数について調整せざるを得なかった。介護福祉士実務者研修通信科では9名が受講終了し、うち3名の介護福祉士試験に合格した。

## 令和2年度 更生部事業報告書【概要】

総括	<p>新型コロナウイルス感染症予防のため、予定していた事業・サービスは大きな影響を受けた。直接的減算になるようなことはなかったが、様々な制限や制約が続き、利用者・家族・職員ともストレスのかかる1年となった。</p> <p>施設入所支援では長期入院者も少なく比較的安定した利用者数を確保した。しかし11月・12月と続いた2名の退所者の補充が3月までかかるなど、新型コロナの影響はあったものの、新入所に向けた取り組みは遅れがちとなった。生活介護では、中止になった各種行事の代替え実施に取り組んだが、日中活動の充実には至らなかったとともに、通所系においても新たな登録者・利用者の拡大とはならず、ともに安定確保のための広報・情報発信は十分にはできなかった。</p> <p>人材育成においては、予定していた外部研修のほとんどが中止または延期、ウェブ研修に変更となり、内部研修のみとなった。</p> <p>感染防止においては新型コロナ対策の好影響でインフルエンザ・ノロウイルス等の感染症なく経過した。事故については同じ利用者による複数回発生がみられ検証や再発防止が検討されたが、結果として全体数は事故・ヒヤリハットともに増加となった。</p>	
利用者サービス等	相談	利用者確保については、入所調整に時間を要した。ホームページや広報誌による情報の発信は弱かった。利用者支援として個別支援計画に基づきサービス提供に努めてきたが、アセスメントの見直し、自立支援に向けて計画内容の充実が伴わなかった。
	介護	ヒヤリハットや事故件数も依然多かった。再発防止に向けた検証やアセスメントによるリスクマネジメントが不十分だったと言える。一方、増加した外傷については細かく観察している結果とも言える。療護部との業務協力については部分的なものに留まった。
	健康管理	新型コロナ対策の影響で、他医療機関への受診は極力減らし、職員による投薬のみの受診とするなど変更した。 インフルエンザ・ノロウイルスといった感染症の発生はなかった。
	訓練	訓練グループにおいて身体機能並びに生活能力の維持・向上を目指してきたが、訓練室の使用に制限がありエレベーターホールや居室での簡易な機能訓練、居室フロアでの出張型作業訓練となった。
	給食	利用者に合った必要栄養摂取量の確保及び個別栄養指導を実施。咀嚼・嚥下のアセスメントにより個々の利用者の状態にあった食事の工夫及び適温提供に努めてきた。また、食事レク等で他職種と連携して企画実施した。
	行事・クラブ活動	年間予定の行事は野外レク・夏祭り・秋の祭典等、中止または代替え行事となった。クラブ活動も活花クラブのみ講師なしで実施し、カラオケクラブと民謡クラブは休止状態のまま経緯した。
	研修計画等	ほとんどの外部研修は中止または延期、ウェブ開催への変更となり、法人研修・更生療護合同研修といった内部研修を中心に実施となった。
	施設管理等	防災対策として防火避難訓練など計画通り実行できた。

## 令和2年度 療護部〔含短期入所〕事業報告書【概要】

総括	<p>新型コロナウイルス感染症予防のため、予定していた事業・サービスは大きな影響を受けた。直接的に大きな減算になるようなことはなかったが、様々な制限誠意業のなか利用者・家族・職員ともストレスのかかる1年となった。</p> <p>施設入所支援では、7名の新入所及び4名の退所者があり年度初めより3名の利用者増となった。新入所受け入れに対しては、事前訪問の際にタブレットやPCを持ち込み、ホームページや施設内の様子を撮影した様子を見てもらうなど工夫した。生活介護では中止になった行事・レクの代替えが施設内中心で行われた。面会制限に関してはタブレットを使用したウェブ面会を可能としたほか、個別の写真集を作成して家族に送付するなど工夫した。短期入所では下半期での利用がなかったことが新型コロナ感染の影響かどうかは不明である。</p> <p>人材育成では予定していた外部研修のほとんどが中止または延期、ウェブ研修に変更となり、内部研修のみとなった。</p> <p>感染防止においては新型コロナ対策の好影響でインフルエンザ・ノロウイルス等の感染症なく経過した。事故については全体数としては減少したが、重大事故として咽喉詰りによる死亡事故が1件発生した。</p>	
利用者等	相談	<p>タブレットやPCを使ったウェブ面会を支援。入所事前訪問の際にも動画を活用するなど新型コロナの影響を少なく抑えた。また、ブログでは行事の様子や職員の取り組みを日々更新した。</p> <p>相談事業所等との関係構築には進展はなかった。</p>
サ	介護	<p>アセスメントによる個別ケア・個別支援を目指したが、高次脳機能障害の対応には苦慮した部分が多かった。更生部との業務協力は部分的なものに終わった。</p> <p>新型コロナ対策で中止となった行事の代替えでは季節感を感じることができるよう工夫などしたが、多くがテイクアウトによる食事レクとなってしまった。</p> <p>介護事故は総数としては前年度より減少したものの、誤嚥による死亡事故やベッドサイドで出火によるボヤがあり、緊急対応を要した。</p>
ビ	健康管理	<p>体調不良等の早期発見・早期対応を主に介護職との情報共有を図りながら利用者の健康管理に努めた。一般的に比較的安定していた1年だった。</p> <p>感染症対策は、新型コロナ対策によって進められ、インフルエンザ・ノロウイルス感染等もなく経過した。</p>
ス	訓練	<p>身体機能並びに生活能力の維持・向上を目指したが、訓練室の使用に制限があったため限られたスペースや器具を使い、ベッドサイド中心の訓練となった。</p>
等	給食	<p>栄養マネジメント計画に基づき、利用者個々の必要栄養摂取量の確保及び個別に栄養指導を実施。また咀嚼・嚥下のアセスメントにより個々の利用者の状態にあった食事を工夫した。また、食事レク等での企画と他職種との連携も行った。</p>
	行事・クラブ活動	<p>年間予定の行事は野外レク・夏祭り・秋の祭典等、中止または代替え行事となった。クラブ活動も活花クラブのみ講師なしで実施し、カラオケクラブと民謡クラブは休止状態のまま経過した。</p>
	研修計画等	<p>ほとんどの外部研修は中止または延期、ウェブ開催への変更となり、法人研修・更生療護合同研修といった内部研修を中心に実施となった。</p>
	施設管理等	<p>防災対策として防火避難訓練など計画通り実行してきた。</p>

## 令和 2 年度特養部(短所入所含) 事業報告書【概要】

総括	<p>令和2年度の入所延べ人数は11,748人で利用率は94.7%と年間目標を下回った。特に上期においては、長期入院に加えて併設の友活の里への優先的入所により1～2床の空床により満床に出来なかった事が低迷要因の一因となっている。</p> <p>短期入所では年間利用率が78.2%と前年度を大きく下回った。コロナ禍での利用控えも減少要因の一因だが、長期利用者に依存し新規顧客獲得に至らなかった点が大きく、町内で限られた短期事業所としての認識を踏まえ、利用者確保とリピーターの増加に向けた営業体制の強化が急務となっている。骨折事故が3件と短期利用者の離脱事故が発生しており、サービス支援計画書に基づいたサービス提供や夜間帯を含めた利用者の行動把握と見守り体制の強化が急務となっている。コロナ禍による家族面会や外出及び外泊の自粛、行事の中止や投薬受診優先と1年を通じて、制約された環境下でのサービス支援となった。利用者や所属職員のコロナウイルス及びインフルエンザ等の罹患者はいなかったが、引き続き感染対策の徹底を要している。</p>	
利用者等	利用状況	今年度の新入所は町内を中心に8名、退所は長期入院に伴う退所が5名であった。短期入所は、コロナ禍により例年より利用相談数が減少、利用率が低下した。
サ	相 談	空き居室を利用し感染対策を講じての面会を一部実施、緊急事態制限下でのWeb面会の調整を実施したが一部のご家族向けのサービスとなり、大半は電話連絡による近況報告が中心となった。利用者の生活の様子を伝える写真や一部動画の提供等、新たな伝達方法の模索を要する。
ー	介 護	入所では骨折事故3件のうち夜間帯での自室内での転倒や移乗介助中の事故があり、夜間帯を含めた利用者の行動把握や職員間での適切な介護方法の周知等に課題が残った。未経験者を含む新人職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。
ピ	健康管理	入所・短期利用者や職員のコロナ感染者やインフルエンザ罹患者はなく経過、感染対策の為の外部受診の自粛や投薬受診対応の徹底を図ってきた。尿路感染による発熱もあり、引き続き感染対策の徹底を図る必要がある。利用者のマスク着用も可能な限り実施、今後も継続予定である。
ス	訓 練	併設特養と併せての訓練提供となり、訓練頻度や訓練時間が限られた提供となり、利用者の自立支援に繋がらなかった。集団訓練の提供等、訓練プログラムや訓練提供時間の継続した検討を要する。
等	給 食	例年同様、入所では栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。
	庶 務	国保連請求やHDC(利用料請求)業務での収支額不一致等幾度か有り、相談課内での複数担当制での請求額の確認や入金確認等の複数チェック体制の確立を要する。
	行事クラブ	コロナ禍での施設内行事の中止や外出行事の自粛等を継続した。今後のコロナワクチンの供給量や予防接種実施の状況にもよるが、引き続き感染拡大状況等を踏まえた、行事企画の実施を要している。
	研修計画等	外部研修の中止や延期等も有り、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がない中での、研修参加数の増加に向け、Web研修への参加等工夫を要している。また新人や中途採用職員の研修も未実施となり、研修実施を要している。
	施設管理等	コロナ感染対策として、緊急補助金を活用しての、アクリルパーテーションの導入や一部ソーニングの措置を講じてきた。引き続き、利用者及び職員の感染対策の継続を要する。

## 令和 2 年度友活の里事業報告書【概要】

総括	<p>当初の計画通り令和 2 年度に開設し、入居延べ人数は 13,608 人、年間利用率は 93.8%で年間最低目標の目安である 95%を下回った。当初の想定よりも早く満床となったものの、下期は長期入院に伴う退居も多く、利用率低迷に至った。振興局報告を伴う重大事故（骨折）が 5 件と多く、（再）アセスメントや定例モニタリングを踏まえたサービス支援計画の立案や見直しと、職種間連携や情報共有等に課題を残した。骨折を伴う入院の長期化も稼働率低下の要因にも繋がっており、的確なケアマネジメント体制の構築と多職種連携によるチームアプローチの構築の必要性を痛感する 1 年となった。コロナ禍での外出や受診制限の実施により、入居者や職員のコロナ感染は無かったが、誤嚥性肺炎や尿路感染症等の発熱者もあり、個室隔離等の緊急時感染対策の徹底を要している。言葉遣いや接遇に関する課題について、接遇改善に向けては、事業所全体での継続した取り組みを要している。</p>	
利用者等	利用状況	<p>今年度の新入居は町内高齢者を中心に 47 名、退居は長期入院に伴う退居が 7 名であった。ご本人・ご家族による、高額な利用料負担の改善として、多床室への転室が 3 名いた。入居希望者確保に向けては、町内外への空床情報等の提供を行い、幅広く入居者を確保していく体制構築を要する。</p>
利用者等	相談	<p>6 月より専従の相談員 1 名の配置により、円滑な家族連絡や入退居支援を行うことができた。コロナ禍での面会制限継続の中、年末より We b 面会の導入を行い一部の家族に限定されるが比較的好評頂いている。開設後一度もご本人の居室を目にしていなご家族が大半で有り、生活の様子が把握できる写真や動画の送付等、新たな情報提供の模索を要している。</p>
利用者等	介護	<p>骨折事故 5 件のうち夜間帯での自室内での転倒や移乗介助中の事故があり、夜間帯を含めた利用者の行動把握や職員間での適切な介護方法の周知等に課題が残った。併設の特養部と同様に未経験者を含む新人職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。</p>
利用者等	健康管理	<p>入居利用者や所属職員のコロナ感染者やインフルエンザ罹患者はなく経過、感染対策の為に外部受診の自粛や投薬受診対応の徹底を図ってきた。尿路感染による発熱もあり、引き続き感染対策の徹底を図る必要がある。利用者のマスク着用も可能な限り実施、今後も継続予定である。</p>
利用者等	訓練	<p>併設特養と併せての訓練提供となり、訓練頻度や訓練時間が限られた提供となり、利用者の自立支援に繋がらなかった。集団訓練の提供等、訓練プログラムや訓練提供時間の継続した検討を要する。</p>
利用者等	給食	<p>例年同様、入居利用者に対して、栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。</p>
利用者等	庶務	<p>国保連請求や HDC（利用料請求）業務での収支額不一致等幾度か有り、相談課内での複数担当制での請求額の確認や入金確認等の複数チェック体制の確立を要する。</p>
利用者等	行事クラブ	<p>併設施設と同様、コロナ禍での施設内行事の中止や外出行事の自粛等を継続した。今後のコロナワクチンの供給量や予防接種実施の状況にもよるが、引き続き感染拡大状況等を踏まえた、行事企画の実施を要している。活花クラブは 2 名が定例参加した。</p>
利用者等	研修計画等	<p>併設の特養部と同様に外部研修の中止や延期等も有り、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がない中での、研修参加数の増加に向け、We b 研修への参加等工夫を要している。また新人や中途採用職員の研修も未実施となり、研修実施を要している。</p>
利用者等	施設管理等	<p>併設施設と共通したコロナ感染対策として、緊急補助金を活用しての、アクリルパーティションの導入や一部ゾーニングの措置を講じてきた。引き続き、利用者及び職員の感染対策の継続を要する。</p>

## 令和2年度老人デイ・居宅・支援センター事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>老人デイは、コロナ禍で一部の利用者に利用控えがあったり、登別在住利用者への利用制限を行う等の対応があったが、利用率は然程低下することもなく順調に事業推進が図られた。一日当たりの利用者は29.1名で、総合事業の利用者は全体の21.6%となっている。町内の事業所が事業の縮小傾向にあることも利用者の確保の要因である。職員配置については、パート職を含めて対応してきたが、退職者もなく安定した運営となった。コロナ禍でのデイサービスはプログラム見直しが必要となり、3密の回避やパーティションの設置等の対策を行ってきた。</p> <p>居宅介護支援は、ケアマネ定着により受任件数も微増しており、若干の好転が見られた。在宅介護支援センター等の委託運営事業は予定どおりの実施となったが、コロナ禍で地域相談会は実視できなかった。</p>	
<p>利用者サービス等</p>	<p>利用状況</p>	<p>老人デイの一日あたり平均利用者は29.1名であり、その内介護予防対象者は21.6%となっている。登録者の利用率は78.4%となっている。ケアプランの作成数は、述べ661件で月平均55.1件となっている。予防介護プランは月平均3件となっている。在宅介護支援センターの85歳時訪問件数は、年間30件となっている。</p>
<p>健康管理</p>	<p>老人デイ利用者の殆どが内服中であり、内服薬の確認、血圧等バイタルチェックを実施し、健康管理に努めてきた。歩行の不安定な利用者も多く、転倒防止等の配慮を行ってきた。転倒事故は2件発生したが幸いに骨折事故には至らなかった。年間を通して、コロナウイルス感染防止対策を実施し、感染防止に努めた結果、利用者・職員に感染者を出すことなく1年間経過した。</p>	
<p>訓練</p>	<p>老人デイでは要支援・要介護共に、個別の機能訓練を実施してきた。介護予防として運動器機能向上を選択し、個別訓練を強化してきた。機能訓練ニーズは高く、訓練士を中心に全スタッフの協力で適切な機能訓練を実施し、概ね利用者のニーズにしている。総合事業については、従来の訓練プログラムを実施してきた。</p>	
<p>給食</p>	<p>併設の管理栄養士が、直接利用者の食事に対する希望等を聞き取りながらニーズに応じてきた。利用者の中には、サービス受給中の食事が大きなウェートを占めているものもあり、健康管理の上からも、食の大切さを自覚しながら給食提供を実施してきた。</p>	
<p>行事・クラブ活動</p>	<p>法人全体の行事への参加は、コロナの影響で不参加とした。単独行事として誕生会、クリスマス会を実施したが、3密を避けたレク等の実施は、マンネリになりやすく今後も工夫が必要である。日曜日の買い物レクは実施を見合わせた。</p>	
<p>事務管理</p>	<p>事務</p>	<p>少数スタッフで効率の良い物品管理、請求事務等を行うため、担当部署に物品管理者を配置し効率化を図っている。介護保険請求については、特養部との共同作業を行ってきた。</p>
<p>施設整備</p>	<p>建物・備品の保守管理を業者と連携して実施してきた。浴室床の漏水が進んでいたため、全面張り替え工事を実施した。又、外装の一部補修工事も行った。コロナ対策として、パーティションの設置を行った。</p>	
<p>研修</p>	<p>事業所内研修は、デイ職員として必要な基本的知識・技術の関する研修を実施し、法人として実施している内部研修等に参加した。ケアマネについては、ケアマネ連協研修会を中心に参加した。</p>	
<p>その他</p>	<p>町内の通所介護事業所が人で不足等の理由に、土曜日の受入れを停止しており、当事業所への受け入れ希望が増加傾向にある。コロナ禍での通所介護事業は営業停止を含む影響が予想されるため、感染対策の徹底と柔軟な対応が必要である。</p> <p>職員の確保は出来ているが、今後も職員の確保と資質の向上が必要であり、更に法人の基本方針であるパワハラのない働きやすい職場環境を構築していくことが必要である。利用者サービスの向上のためには、サービス内容の検討を常に行い、利用者ニーズに応じていくことが必要である。居宅については数値目標を設定して利用者の確保に努め、地域の機関との連携を目指していくことが必要である。</p>	

## 令和2年度 グループホームいたどり事業報告（概要）

総括	<p>4 月当初は入院者もいなく新年度を迎える事ができたが、8 月頃より断続的に入院者が見られる。入院者については、入院に至った病気は完治されるが入院した事による認知面の進行で退院ができなく退去に繋がるケースが確認され稼働率の低下に繋がってしまう。ただ、退去後の新入居の受け入れを 1 か月以内に進める事で大きな稼働率の低下にならず、年間目標である稼働率95%をこえ96.1%で今年度を終える事ができた。今後も退去後の早期入居支援ができる様に、病院・老健・居宅介護支援事業所などと、普段より情報共有を図り待機入居者の確保に努めていく。入居者の高齢化が確認され、全体の2/3は85歳以上100歳未満となり今後も病状の悪化が入院から退去に繋がる可能性もあるので、健康状態の確認を怠らないよう早期発見・早期対応を今後も努めていく必要がある。地域貢献と関りについては、コロナ禍で予定されていた町内のお祭り等が中止となり交流を図る事はできなかった。また、定期的に開催していた運営推進会議についても紙面開催で今年度は実施できなかった。ただ、情報誌の回覧の継続と、今年度は事業所自身が町内会6班の班長となり町内会の一員として多少の関りと貢献はできたと思う。</p>	
利用者等	利用状況	<p>令和2年度の入居者の平均数は17.0人と昨年より0.47人減少する。原因としては、長期入院からの退去者を含めた4人退去されたことが稼働率の低下に繋がる。ただ、早期の新入居の受け入れを行うことで年間目標の稼働率を上回る事ができた。入居者の年齢層が高くなり90歳台が7人、85歳以上が6人と入居者の半分以上を占め平均年齢も87.3歳となっている。また、高齢化になる事で受診頻度も増えてきている。要介護度については要介護3の入居者が増える。</p>
利用者等	健康管理	<p>高齢率が上がる事で認知症以外にも新たな疾病も確認されるが、病状に応じた支援を早期に行う行うことで悪化を防ぐことができた。また、毎日の状態確認とバイタル測定を行い健康管理にも努めたが、転倒による骨折に繋がる重大事故が2件発生してしまう。新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうが、感染予防対策を実施する事で、入居者・職員とも感染者を出さずに終える事ができる。例年、事業所内で発生したインフルエンザもコロナ対策が功を成し感染者を出すことなく終えることができた。</p>
利用者等	給食	<p>例年同様に食事提供委員会が中心となり献立を作成。その中には入居時の聞き取りや入居後の会話の中で確認した嗜好品を献立の中に取り入れている。肉や魚など同じ物が続かないように、また、和・洋・中と同じような味付けが続かない様に注意し提供した。入居者の口腔状態や体調に応じて柔軟に食事形態や献立内容を変更し摂取量が増える様に対応もする。ただ、コロナ禍の中で外食やご家族・地域住民の方と食に関する関りや、食に対する環境面の支援や楽しみを提供できなく終えてしまう。</p>
利用者等	余暇支援(行事等)	<p>コロナ禍の中でも、例年行っているバーベキューや秋の小旅行などを中止することなく規模を縮小しつつ提供した。また、少しでも生活に楽しみを持って頂ける様に、新たな行事「いたどり祭り」を開催しゲームや屋台などを行うこともできた。その他の、望年会・クリスマス会・餅つきなど季節を感じられる行事も例年同様に開催する。ただ、頻繁に外出できない事や、家族・地域住民との関りも例年より大幅に少なくなり、どうしても食べる行事が多くなってしまい、身体を動かしたり視覚や聴覚で楽しむ行事を、例年の様には提供できなかった。</p>
事務管理	事務	<p>事務対応職員が2名から1名になるが、昨年同様の業務を行い、大きなトラブルなく終える事ができる。10月には外部評価を受け、こちらも業務に対する大きな修正や改善の指導なく現状を維持するように指示を受ける。</p>
事務管理	施設整備	<p>今年度は修繕・経年劣化による部品の交換が多く費用もかかってしまう。内容としては、式ユニット浴槽蛇口の混合栓取替、壱ユニットでお湯が出なくなりボイラー分解整備とミキシング弁・ファンモーター交換、床暖のメンテナンスを行う。車両についても部品交換修理と車検があり費用がかさんでしまう。施設備品の修理・購入はなかったが、今後は開設当初から使用している冷蔵庫などの施設備品の経年劣化も予測される。新型コロナウイルス感染症防止対策として、事業所内にアクリルパーテーションを設置し、手洗い場横に卓上用ディスペンサーを設置する。</p>
事務管理	研修	<p>参加を予定していた外部研修については、コロナ禍の影響もあり相次ぎ中止となり参加できなかったが、法人内の研修には参加した。また、拘束虐待防止委員会と感染予防委員会が定期的に研修を行うなど、事業所内研修を開催し課題を検討し学ぶ機会を設ける。</p>
その他	<p>・令和2年10月23日に特定非営利活動法人ニッポン・アソシエーツより外部評価を受ける。・職員については長年勤めてくれた職員1名が3月で退職となる。家庭内の事情が退職の一番の理由だがキッカは人間関係も絡んでいる。狭い空間での業務なので一度関係が崩れてしまうと修復が困難になり、業務にも支障をきたすこともある為、関係性の変化への早めの気づきとフォローを行い職場内の環境を整えることが離職を防ぎサービスの向上にも繋がると考える。このことが今後の課題となる。</p>	

## 令和2年度寿幸園（短期含）事業報告

事業報告	<p>1. 令和2年度は、入居者延べ人数が18,790名と昨年度を上回り、入居の年間稼働率が95.2%と年度目標の95.0%を上回ることが出来た。短期入所については、新型コロナウイルス感染拡大の影響から利用を控える動きにより、年間稼働率が88.0%と昨年度と比べ下がってしまった。但し、在宅から入居4名のうち3名が短期入所利用者であり、地域の在宅ニーズ対応への機能を果たしていると言える。</p> <p>2. 新型コロナウイルス対策として、国の緊急包括支援金を活用し個人防護具やゾーニング対応備品の整備を図り、施設内で感染が発生した状況に備えた。</p> <p>3. 事故に関しては重大事故が3件発生している（骨折2件・誤薬1件）。但し、9月以降の重大事故の発生はなく、昨年度の8件と比べると発生件数が減少している。</p> <p>4. 苦情に関しては、職員による不適切対応に対する1件あり。該当職員への対応を含め施設（天寿会）として対応した。</p>	
利用者サービス	入居者状況	<p>1. 令和2年度末時点の平均介護度3.2、平均年齢85.1才であった。90才以上の入居者が18名おり、100才以上は1名である。</p> <p>2. 平均在所期間は3年6ヶ月であり、10年以上の在所者が3名おり、最長在所年数は18年7ヶ月である。</p>
相談援助	<p>1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響による面会制限等の処置について、都度家族に対面や電話等で説明し理解を得ることが出来た。</p> <p>2. 非常口扉越しの面会等、感染防止を図りながら施設建物の特性を生かした家族面会を柔軟に対応した。</p>	
介護支援	<p>1. 特殊浴槽での入浴の形式を変更することで、ユニット介護職の業務負担の軽減を図り、入居者対応への時間を増やすことに努めた。</p> <p>2. ユニット・ブロック間の介護職員の異動を行い、ユニットの運営体制の更新に努めた。</p>	
健康管理	<p>1. 年間を通じ、手指消毒やマスク着用を徹底し、コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症の発生は見られなかった。</p> <p>2. 入居者・ショートステイ利用者の体調不良に関しては、嘱託医や主治医と連携し迅速に対応することが出来た。併せて、状況に応じて白老町立病院を含め、整形外科や精神科受診を行った。</p>	
機能訓練	<p>1. 個別訓練に関しては、最新の注意を払い感染防止に努めた。</p> <p>2. 集団体操は、入居者が狭い空間で密になることを避ける為、ブロック単位で午前・午後と分けて実施した。</p>	
給食	<p>1. 食事を伴う外出レクが企画できない中で、食を通じて生活に潤いが得られるように食事レクや献立作成に努めた。</p>	
行事	<p>1. 夏祭りについては後援会と協議の上で中止した。</p> <p>2. レク委員会を中心に、不特定多数との接触を避けて感染リスクを下げながら入居者の生活に変化・季節感を持たせる行事を企画した。</p>	
研修	<p>1. 新型コロナウイルス感染の影響から、例年のような道社協や老施協主催の参集型の研修がなくなった為、外部研修への参加はなかった。</p> <p>2. 内部研修については、天寿会主催の録画によるハラスメント防止研修を少人数ごとに実施した。</p>	
施設管理	<p>1. 建物が10年以上経過し、設備・備品の経年劣化による不具合が増加した。特に厨房機材や暖房設備の破損・故障が数件生じ、都度、白老町と協議しながら補修・修繕を行った。</p>	
その他	<p>1. 広報誌「やまぼうし」を年4回発行し関係者に配布した。</p>	



## 令和2年度 しおさい事業報告書【概要】

総 括	<p>介護サービス包括型として人員配置は世話人4：1、夜間支援体制についても加算Ⅲ（緊急連絡体制による支援）と同様である。【定員の確保】【障害福祉サービスの協力関係】という面では、新型コロナウイルス禍ではあるが、相談支援事業所とも連携を取りながら、入居へ向け動いていたが、苫小牧市内の共同住宅の新規オープン数カ所の動きもあり、空床が続くこととなった。当法人のメリットでもある生活介護との繋がり、短期入所支援や施設入所支援への繋がり、自立支援の強化などの課題が明確となり、しおさいとしての特色を今一度、見直す必要があると感じる1年であった。</p> <p>【利用者支援】としては、高次脳機能障害、知的障害、精神障害と3障害を受け入れているグループホームとして、個々のニーズにあったサービスを提供、勉強会、スタッフ会議などを活用し、支援への理解に努めてきた。【防災、事故、防犯対策】については、防火避難訓練の実施、防犯カメラの検討、重度化、高齢化していく利用者様への夜間支援体制については、今後も検討を行っていく必要がある。</p> <p>【職員研修、スキルアップ】に関しては、月に1回のスタッフ会議、サービス管理責任者、生活支援員への障害合同研修などに参加し、世話人への周知を図る形を取った。また、サービスを支える大きな役割である世話人に対しても、業務改善、より働きやすい職場作りとして、ボトムアップ、世話人同士の意見交換の場、業務改善を形にする仕組み作りに取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルスの影響もあり、ご家族様や地域住民等との交流の場として利用者様が企画の主体となる「夏祭り」、「旅行会」を開催することは出来なかった。感染症対策を進めながらも、「地域で暮らす」ということ、「家」であることを忘れずに、利用者本位、地域生活を今一度考えていく。</p>	
利 用 者 サ ー ビ ス 等	相 談	相談支援事業所との連携、グループホーム見学、今後のグループホームを検討するための住宅見学を行ってきたが、利用者確保、待機者確保と考えるのであれば、しおさい独自の色が必要になってきていると考える。サービス管理責任者、管理者代理、管理者と月1回以上、しおさいについて話が出来る場面を作り、意思疎通、繋がりを実感出来る環境整備を行った。
	相 談	利用者の個別支援計画に基づき支援を継続。身体、知的、精神障害と3障害を受け入れているグループホームとして改めて利用者ニーズ、アセスメントの捉え方の再確認の場を設け、個別支援計画の充実を図ってきた。新型コロナウイルスの影響もあり、しおさいのブログを毎日更新し、情報発信、「しおさい」を伝えることに取り組んだ。
	生 活 支 援	3障害の受入を行っており、改めて支援のあり方の確認、声掛け、日頃の生活スタイルの把握など基本に立ち返るために勉強会を実施。世話人同士の交流の場を設け、より利用者様に対する支援を考える場としてスタッフ会議以外の世話人のみの話し合いの場を作った。
	健 康 管 理	生活支援員(看護師)による日常的健康チェックや早期対応による健康管理の把握に努め、適時受診介助などを行ってきた。投薬方法、自立支援、管理体制などの意識共有を図る場面を多く設定し、利用者様と一緒に考える機会を作った。また、感染症予防としてインフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルス勉強会、手指消毒振り返りの場を設け、リスク管理の意識向上にも努めた。
	給 食	利用者の嗜好や栄養面に配慮した献立を行い食事の提供に努めてきた。世話人同士のスキルアップのため調理実習・試食会も例年通り実施。また、業務改善のため、とどく、業者の導入に関しても利用者様の協力、世話人との協議の場を設け、しおさいの『食』を今一度、振り返る時間を持った。
	行 事	例年通りの夏祭りや忘年会の開催とは行かなかったが、住まいの場、感染対策を考慮しながら、利用者様と共に考えながら実施した。当法人のみの利用ではなく、他事業所企画のイベントもあり、その都度、連携、リスクの確認を行いながら、参加して頂いた。日々の様子をブログで毎日アップし続けることが出来た。
	研 修 計 画 等	法人研修委員会及び療護部・更生部との合同研修委員会にて研修内容を検討し実施してきた。また、得た知識、情報をしおさいに伝達する役割をサービス管理者が発信者として機能。内部の研修会が主ではあったが情報収集や各職場への周知を図り、職員の知識・技術の向上に努めてきた。
	施 設 管 理 等	防火訓練の実施。新型コロナウイルス対策支援金の申請による必要品の整理整頓を行った。白老町と協議し、縁石の修理依頼、実施。 次年度、築10年となり、修繕力所の確認を行う必要がある。

令和2年度 介護老人保健施設そよ風の里事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>令和2年度は、4月・5月に死亡者が4名と集中したが、比較的短期間で新入居に繋ぐことが出来ており、長期間にわたり空床が生じることは避けることが出来た。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策に関しては、「持ち込まない」をモットーに手指消毒・マスク着用を徹底し感染者ゼロで経過している。又、看護・介護・相談の管理職を中心に「感染対策委員会」を組織し、そよ風の里内に感染者が発生した場合の対応策を検討した。その他、新型コロナウイルス緊急包括支援金を活用し主に、①各ユニットへの加湿器配備、②対面での面会制限に対してオンライン面会の為のタブレットパソコンの購入、③そよ風の里内での感染者発生に備えた個人防護具の整備、④ペーパーホルダーの整備による手指消毒環境の向上、⑤天寿会内での感染者発生に備えた個人防護具の整備を整備した。</p> <p>入居者対応に関しては、新型コロナウイルス感染防止から外出行事を取りやめ、ユニット行事時のユニット費の上限を3,500円から5,000円に変更し、ユニットレクの回数を増やす・内容の向上を図った。又、事故に関しては骨折事故の発生はゼロであったが、他入居者の薬を服用させる等の誤薬事故が4件あった。</p>																
<p>利用者サービス等</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="256 748 416 831"> <p>利用状況</p> </td> <td data-bbox="416 748 1436 831"> <p>年間の稼働率は96.9%であった。短期入所療養介護事業については、入居を優先対応につき稼働実績はなし。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 831 416 943"> <p>相談</p> </td> <td data-bbox="416 831 1436 943"> <p>他の医療機関や法人内の他事業所からの利用相談に応じており、新入居に円滑に繋げることが出来た。又、新型コロナウイルス感染拡大に伴う面会体制の変化に対して、電話連絡や書面等の手段を通じ家族の理解を得ることが出来た。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 943 416 1099"> <p>介護</p> </td> <td data-bbox="416 943 1436 1099"> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響から外出行事の企画が出来なくなったことから、ユニット内でのレク（食事レク等）を例年より回数を増やした。</p> <p>又、入居者・家族とも長期間顔を見ることが出来ていない状況を鑑みて、行事時の写真等を定期的に家族に提供するサービスを開始した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1099 416 1256"> <p>健康管理</p> </td> <td data-bbox="416 1099 1436 1256"> <p>入居者の健康状態は比較的落ち着いていた状況だが、入居者の体調不調時には、都度、適切・迅速に対応しており、必要に応じて他医療機関に繋げることが出来た。そよ風の里内の新型コロナウイルス対策について、看護・介護相談の管理職を中心にゾーニング等の感染防止対応策を策定した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1256 416 1368"> <p>訓練</p> </td> <td data-bbox="416 1256 1436 1368"> <p>訓練に関しては、特に新型コロナウイルス感染の影響を受けることなく従来通りに提供することが出来た。言語訓練に関しては小集団での歌唱を行うことが、外出制限下での入居者にとって気分転換を図る一助となった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1368 416 1480"> <p>給食</p> </td> <td data-bbox="416 1368 1436 1480"> <p>聞き取りや給食運営会議等により、概ね入居者の嗜好に合わせた献立を実施することが出来た。又、食事レク（鮭の提供やデザートバイキング等）を数回行うことにより、食生活に変化をつけることが出来た。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1480 416 1637"> <p>庶務</p> </td> <td data-bbox="416 1480 1436 1637"> <p>請求に関しては概ね滞りなく行うことが出来た。但し、再入居時の訓練の扱いの手違いによる過誤申請が1階あった。又、夜勤加算の算定要件である夜勤職員数が不足していることから過誤申請に至ったが、計算時の入力手違いであることが分かり、各保険者に過誤申請の取り消しを行った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1637 416 1711"> <p>行事クラブ</p> </td> <td data-bbox="416 1637 1436 1711"> <p>生け花クラブ6名が月1回活動を行い、余暇活動として参加者の気分転換を図ることが出来た。</p> </td> </tr> </table>	<p>利用状況</p>	<p>年間の稼働率は96.9%であった。短期入所療養介護事業については、入居を優先対応につき稼働実績はなし。</p>	<p>相談</p>	<p>他の医療機関や法人内の他事業所からの利用相談に応じており、新入居に円滑に繋げることが出来た。又、新型コロナウイルス感染拡大に伴う面会体制の変化に対して、電話連絡や書面等の手段を通じ家族の理解を得ることが出来た。</p>	<p>介護</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響から外出行事の企画が出来なくなったことから、ユニット内でのレク（食事レク等）を例年より回数を増やした。</p> <p>又、入居者・家族とも長期間顔を見ることが出来ていない状況を鑑みて、行事時の写真等を定期的に家族に提供するサービスを開始した。</p>	<p>健康管理</p>	<p>入居者の健康状態は比較的落ち着いていた状況だが、入居者の体調不調時には、都度、適切・迅速に対応しており、必要に応じて他医療機関に繋げることが出来た。そよ風の里内の新型コロナウイルス対策について、看護・介護相談の管理職を中心にゾーニング等の感染防止対応策を策定した。</p>	<p>訓練</p>	<p>訓練に関しては、特に新型コロナウイルス感染の影響を受けることなく従来通りに提供することが出来た。言語訓練に関しては小集団での歌唱を行うことが、外出制限下での入居者にとって気分転換を図る一助となった。</p>	<p>給食</p>	<p>聞き取りや給食運営会議等により、概ね入居者の嗜好に合わせた献立を実施することが出来た。又、食事レク（鮭の提供やデザートバイキング等）を数回行うことにより、食生活に変化をつけることが出来た。</p>	<p>庶務</p>	<p>請求に関しては概ね滞りなく行うことが出来た。但し、再入居時の訓練の扱いの手違いによる過誤申請が1階あった。又、夜勤加算の算定要件である夜勤職員数が不足していることから過誤申請に至ったが、計算時の入力手違いであることが分かり、各保険者に過誤申請の取り消しを行った。</p>	<p>行事クラブ</p>	<p>生け花クラブ6名が月1回活動を行い、余暇活動として参加者の気分転換を図ることが出来た。</p>
<p>利用状況</p>	<p>年間の稼働率は96.9%であった。短期入所療養介護事業については、入居を優先対応につき稼働実績はなし。</p>																
<p>相談</p>	<p>他の医療機関や法人内の他事業所からの利用相談に応じており、新入居に円滑に繋げることが出来た。又、新型コロナウイルス感染拡大に伴う面会体制の変化に対して、電話連絡や書面等の手段を通じ家族の理解を得ることが出来た。</p>																
<p>介護</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響から外出行事の企画が出来なくなったことから、ユニット内でのレク（食事レク等）を例年より回数を増やした。</p> <p>又、入居者・家族とも長期間顔を見ることが出来ていない状況を鑑みて、行事時の写真等を定期的に家族に提供するサービスを開始した。</p>																
<p>健康管理</p>	<p>入居者の健康状態は比較的落ち着いていた状況だが、入居者の体調不調時には、都度、適切・迅速に対応しており、必要に応じて他医療機関に繋げることが出来た。そよ風の里内の新型コロナウイルス対策について、看護・介護相談の管理職を中心にゾーニング等の感染防止対応策を策定した。</p>																
<p>訓練</p>	<p>訓練に関しては、特に新型コロナウイルス感染の影響を受けることなく従来通りに提供することが出来た。言語訓練に関しては小集団での歌唱を行うことが、外出制限下での入居者にとって気分転換を図る一助となった。</p>																
<p>給食</p>	<p>聞き取りや給食運営会議等により、概ね入居者の嗜好に合わせた献立を実施することが出来た。又、食事レク（鮭の提供やデザートバイキング等）を数回行うことにより、食生活に変化をつけることが出来た。</p>																
<p>庶務</p>	<p>請求に関しては概ね滞りなく行うことが出来た。但し、再入居時の訓練の扱いの手違いによる過誤申請が1階あった。又、夜勤加算の算定要件である夜勤職員数が不足していることから過誤申請に至ったが、計算時の入力手違いであることが分かり、各保険者に過誤申請の取り消しを行った。</p>																
<p>行事クラブ</p>	<p>生け花クラブ6名が月1回活動を行い、余暇活動として参加者の気分転換を図ることが出来た。</p>																
<p>研修計画等</p>	<p>天寿会研修委員会の研修及び法人研修として「ハラスメント防止研修」への参加を行った。</p>																
<p>施設管理等</p>	<p>新棟設備に関しては3F 個浴脱衣室天井の配管から水漏れが発生。点検の結果、個浴室天井の配管の漏れであることが分かり交換修理を行った。備品に関しては、食洗機や洗濯機の故障が数件発生し、都度、修繕や買い替え等を行い対応する。その他、診療部より使用しているセンサーマット等の不具合も数件発生しており、機材の経年劣化による随時の更新が今後の課題になると思われる。</p>																

## 令和2年度 診療所事業報告書【概要】

総括	<p>診療所事業については、当診療所が地域から期待される医療ニーズを踏まえ、慢性疾患を主病とした地域住民への医療提供と法人施設のご利用者様及び法人勤務職員に対する医療提供や健康管理を主として事業運営を継続してきた。</p> <p>収入については、法人内の施設利用者に対する収入はある程度確保出来ているが、一般外来患者に関しては年々減少基調にあるところに、新型コロナウイルス感染拡大による一般外来患者数の減少により、診療所拠点区分単体での運営は依然として厳しい経営状況にある。</p> <p>令和3年に入り、新型コロナウイルスワクチンの個別接種実施施設として、苫小牧医師会を通じて北海道と委託契約を締結。又、一般外来患者や法人内施設利用者や職員の新型コロナウイルス感染の早期発見に向けて、北海道と行政検査の委託契約を締結し抗原検査キットを購入した。今後は、白老町の新型コロナウイルスワクチン接種計画に基づいた個別接種・集団接種への協力を行う。</p> <p>事業概要としては、以下の内容の事業を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住民に対して主に慢性疾患等の診療を提供する。</li> <li>2. 施設入所利用者様に対して健康管理・健康診断を提供する。</li> <li>3. 法人職員に対し健康管理を提供する。</li> <li>4. 地域住民・職員・施設利用者に対し、ワクチンや予防接種を提供する。</li> <li>5. 学校健診を受託する。</li> </ol>	
医療サービス等	地域住民	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約による「特定健診」や「後期高齢者健康診査」は、新型コロナウイルス感染防止のために一時中止をした。その結果、「特定検診」は予定通り実施出来たが、「後期高齢者健康診断」は予定件数に達することが出来なかった。</li> <li>2. 在宅療養指導は予定数を上回った。</li> <li>3. 登別・室蘭・苫小牧の協力医療機関と連携し、緊急時支援体制の確保を図った。</li> <li>4. 肺炎球菌はほぼ予定通りに実施出来た。インフルエンザも予定件数を上回り実施することが出来た。</li> <li>5. 白老町学校検診へ協力している。－白老町立虎杖小学校・竹浦小学校</li> </ol>
	施設利用者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防接種を提供した。インフルエンザワクチンは利用者分が確保できた。</li> <li>2. 登別・室蘭・苫小牧の協力医療機関と連携し、緊急時支援体制を確保してきた。</li> <li>3. 定期健康診断と診療を提供した。</li> </ol>
	職員	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康診断を年1回、夜勤職員は2回実施した。</li> <li>2. 診療を提供した。</li> <li>3. インフルエンザ予防接種を提供した。ワクチン量については職員分を確保できた。</li> <li>4. 協力医療機関と連携し医療の支援体制を図っている。</li> </ol>
	病状対応	<p>診療所内への新型コロナウイルス感染発生を防止するために、新型コロナウイルス緊急包括支援金・医療体制強化補助金を活用し次のことを実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療所玄関風除室の一部を改装し発熱者の待機場所を作った。</li> <li>2. 待合室や診察室等に空気清浄機付加湿器を設置した。</li> <li>3. 窓に網戸を設置し円滑に所内の換気が出来るようにした。</li> <li>4. 個人防護具を備蓄し、感染が発生した際の職員への感染防止策を講じた。</li> </ol>
	医療機器	<p>必要最小限の機器で対応し、設置機器以外の検査については委託業者へ依頼をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. X線一般撮影装置</li> <li>2. デジタルX線画像診断システム</li> <li>3. 回診用X線撮影装置</li> <li>4. 超音波画像診断装置</li> <li>5. 尿検査器・生化学分析装置</li> <li>6. 多機能心電図自動解析装置</li> </ol>
	人員	<p>人員配置は、医療法・医師法等を遵守した配置である。</p> <p>医師 2名 薬剤師・看護師・レントゲン技師・臨床検査技師・薬局助手 1名 医療事務 2名</p>
	施設管理等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄化槽の破損による補修工事を実施した。</li> <li>2. 避難誘導灯の経年劣化による交換工事を実施した。</li> <li>2. 限られた職員で効率的に業務をすすめ、経費節減に努めている。</li> </ol>

## 令和2年度 天寿会介護福祉士実務者研修通信科事業報告【概要】

<p>総括</p>	<p>新型コロナウイルスの感染が拡大する中、開設4年目を迎え過去最高の受講者数となり、感染予防に努め講座運営を行った。</p> <p>令和2年度介護福祉士国家資格の合格率については、無資格者3人中3人合格(100%)、訪問介護員2級修了者1人中0名合格(0%)、全体の合格率75%となった。本講座卒業者について、無資格者・初任者研修修了者の合格率は96.5%と高水準を維持しているが、訪問介護員2級修了者の合格率は71%で、複数回受験が多くみられることから、より効果的な教育方法等について検討の必要性が考えられる。</p>
<p>利用者サービス等</p>	<p><b>利用状況</b></p> <p>令和2年6月開講通常コース5名、9月開講コース4名、計9名の受講(1クラス5名3回開講 計15名の定員に対し) 受講率60%、前年比34ポイントプラスとなった。</p> <p>実務者研修の開講・受講支援体制が整備されていること、友活の里開設に伴う職員の増員等により、介護福祉士国家資格取得を目標として就労を希望する者の採用が促進されたことが要因となった。</p> <p><b>サービスの向上</b></p> <p>受講生の利便性の向上のためWEB学習システムを導入し、6月開講講座より運用を開始した。受講生からは、場所を選ばず学習できることや、繰り返し問題を解くことで知識を習得しやすいと好評を得た。また、法人ホームページ内に受講生専用ホームページを開設し、情報発信、通信学習支援、介護福祉士国家試験受験支援を行った。ICT活用を進めたことで、事務負担の軽減を図ることもできた。</p> <p>教育教材について、リトルアンQCPRを整備したことで、タブレット端末を使用して状況の確認ができることで、より質の高い技術を習得できるトレーニングを実施することができ受講生からも好評を得た。</p> <p>一方、4講座について教育訓練給付金制度の専門実践教育訓練給付金指定講座となり、ホームページへの掲載、町内介護福祉事業所へパンフレットを配布するなど周知したが、法人職員以外の受講にはつなげることができず、令和3年度においては講座運営と人材紹介を一体的に運営している大手の三幸福祉カレッジが白老での講座運営を開始することから課題となる。</p>
<p>申請手続き等事務</p>	<p>第5条報告を適切に実施するとともに、介護福祉士実務者養成カリキュラムの変更・WEB学習システムの導入に伴うテキスト・カリキュラム変更に伴う必要な手続きを実施した。</p> <p>教育訓練給付金指定講座運営については、実績報告について遅延なく実施するとともに、指定講座運営の書類整備、ホームページへの明示書の掲載等、指定講座運営に必要な事務を実施した。</p>
<p>施設管理等</p>	<p>新型コロナウイルスの感染予防のため、スクーリングの開催にあたっては、感染予防に関する協力の要請・事前の体調確認を実施し、講座開始前の検温・体調確認、マスクの着用、手指消毒、アクリルパーテーションの設置、換気、一定の距離を保てるようスペースを確保し、教育方法についても接触を可能な限り最小限とするなど工夫して実施した。</p> <p>通信科備品管理、消耗備品の在庫管理・補充、研修室の整理等適切な施設・備品管理に努めた。</p>